

<参考資料>

受付日	平成 年 月 日
受付番号	

報告済書 発行日	平成 年 月 日
----------	----------

報告済書 番号	
---------	--

膜構造建築物定期点検報告書

設計審査済書 番 号	D- (特定膜構造建築物以外では記入不要)
物 件 名	
膜体加工者名	
定期点検実施日	平成 年 月 日
定期点検時期 (○印を付ける)	1, 4, 7, 10, 13, 16, 19, 22, 25, 28 年 その他 () 年

提出日 平成 年 月 日

〇〇〇〇株式会社

膜構造建築物定期点検報告書

一般社団法人 日本膜構造協会
会長 石井 一夫 殿

膜体加工者名
代 表 者 名 印
定期点検者名
登 録 番 号
所 属 部 署
電 話 ()

膜構造建築物維持保全指針第 10 条により、下記の膜構造建築物の維持保全計画に基づく建設後_____年の定期点検を行いましたので、次のとおり報告いたします。

1. 膜構造建築物の概要

(1) 設計審査済書番号	D- (特定膜構造建築物以外では記入不要)
(2) 建築物名称	
(3) 用途	
(4) 場所	
(5) 地域・地区	(用途地域、防火地域等)
(6) 規模	(1) 敷地面積 m^2 (2) 建築面積 m^2 (3) 延べ面積 m^2 (4) 膜面最高高さ m (5) 膜構造部面積 m^2
(7) 構造形式	(1) 骨組膜構造 (2) サスペンション膜構造 (3) 空気膜構造
(8) 固定、開閉の別	(1) 固定式 (2) 開閉式
(9) 膜体施工完了日	年 月 日
(10) 建築物所有者	
(11) 維持管理責任者 (名称、住所)	
(12) 設計者	
(13) 施工者	
(14) 膜体加工者 (工場名、所在地)	
(15) 膜材料	(1) 種 (2) 合格No. (3) 品名
(16) 点検の範囲 (該当番号を○で囲む)	(1) 膜体と膜構造部分(膜定着部まで) (2) (1)+膜定着鋼製基材 (膜支持下地鋼材まで) (3) (2)+主架構構造 (鉄骨、地上の基礎、アンカーボルトまで)
(17) 特記	

(1) 建築物概要写真

	写 真	備 考
写 真 1		
写 真 2		
写 真 3		

(2) 建築物概要図

平 面 図	(方位を入れる。)

立面图 · 断面图

2. 膜構造建築物定期点検リスト

定期点検実施日	平成 年 月 日	構造形式	骨組膜、サスペンション膜、空気膜
---------	----------	------	------------------

定期点検リスト（1）

グレード	I	特に支障ない	II	次回の点検まで要注意	III	要診断	*	要対策
------	---	--------	----	------------	-----	-----	---	-----

	劣化現象	1次試験	デグリー	グレード等	東	西	南	北	診断結果及び措置
膜	変形	変形していない	1	I					
		少し変形している	2	II					
		かなり変形している	3	III					
		有害な変形をしている	4	III					
		大きく変形している	5	III					
構造	しわ	しわの発生なし	1	I					
		しわが部分的にある	2	I					
		有害と思われるしわがある	3	III					
		膜面の全体にしわ発生	4	III					
部	破れ、破断	破れ、破断がない	1	I					
		少しの破れ、破断がある	2	*					
		有害な破れ、破断がある	3	*					
		危険な破れ、破断がある	4	*					
全体	初期張力低下	緊張している	1	I					
		部分的にゆるみが見られる	2	II					
		ゆるみが全体的にある	3	III					
		全体的にかなりゆるんでいる	4	III					
		全体的にグラグラしている	5	III					
膜材	汚れ	ほとんど汚れていない	1	I					
		やや汚れている	2	I					
		汚れている	3	III					
		かなり汚れている	4	III					
		顕著に汚れている	5	III					
材料	かび (局所的な かびの発生 面積率)	M<1%	1	I					
		1%≤M<10%	2	I					
		10%≤M<20%	3	III					
		20%≤M<30%	4	III					
		30%≤M	5	III					
	膜 体							接 合 部	
部 位 番 号	M1：本体膜 M2：屋根膜 M3：壁膜 M4：妻膜 M5：エキスパンション M6：扉膜	M7：破風膜 M8：気密用膜 M9：陣笠 M10：送風ダクト M11：排気ダクト M12：壁裾膜	M13：補強膜 M14：屋根取付け膜 M15：裾部取付け膜 M16：非常口膜 M17：フラップ膜	J1：掛け合わせ部 J2：シール用膜 J3：縫製部 J4：熱溶着部					

定期点検リスト（２）

グレード	I	特に支障ない	II	次回の点検まで要注意	III	要診断	*	要対策
------	---	--------	----	------------	-----	-----	---	-----

	劣化現象	1次試験	デグリー	グレード等	東	西	南	北	診断結果及び措置
膜 材 料	変退色	ほとんど変退色はない	1	I					
		やや変退色している	2	I					
		変退色している	3	III					
		かなり変退色している	4	III					
		顕著に変退色している	5	III					
	光沢低下	光沢がある	1	I					
		わずかに光沢がある	2	III					
		光沢がない	3	III					
	白垂化	ほとんど付着しない	1	I					
		わずかに付着する	2	I					
		付着する	3	III					
		かなり付着する	4	III					
		顕著に付着する	5	III					
	硬 化	硬くない	1	I					
		やや硬い	2	I					
		硬 い	3	I					
		かなり硬い	4	III					
		顕著に硬い	5	III					
	摩 耗 (局部的な摩耗) (ケーブル、 柱などのこ すれによる)	な し	1	I					
		わずかにある	2	II					
摩耗している		3	III						
基布が露出している		4	III						
基布が摩耗している		5	III						
ひび割れ (全体にわた るひび割れ)	な し	1	I						
	わずかにひび割れがある	2	II						
	ひび割れがある	3	III						
	基布に達するひび割れがある	4	III						
	コーキング、基布のひび割れがある	5	III						
ひび割れ (局部的な ひび割れ)	な し	1	I						
	わずかにひび割れがある	2	II						
	ひび割れがある	3	III						
	基布に達するひび割れがある	4	III						
	コーキング、基布のひび割れがある	5	III						

	膜 体			接 合 部
部 位 番 号	M1：本体膜	M7：破風膜	M13：補強膜	J1：掛け合わせ部
	M2：屋根膜	M8：気密用膜	M14：屋根取付け膜	J2：シール用膜
	M3：壁 膜	M9：陣 笠	M15：裾部取付け膜	J3：縫製部
	M4：妻 膜	M10：送風ダクト	M16：非常口膜	J4：熱溶着部
	M5：エキスパンション	M11：排気ダクト	M17：フラップ膜	
	M6：扉 膜	M12：壁裾膜		

定期点検リスト（3）

グレード	I	特に支障ない	II	次回の点検まで要注意	III	要診断	*	要対策
------	---	--------	----	------------	-----	-----	---	-----

	劣化現象	1次試験	テグラー	グレード等					診断結果及び措置
					東	西	南	北	
膜 材 料	ふくれ (気泡又は水泡による あわ状のふくれ) (1) 全面に発生 したふくれ	B=0	1	I					
		$1/\text{m}^2 \leq B \leq 3/\text{m}^2$	2	II					
		$4/\text{m}^2 \leq B \leq 10/\text{m}^2$	3	III					
		$11/\text{m}^2 \leq B \leq 20/\text{m}^2$	4	III					
		$20/\text{m}^2 \leq B$	5	III					
	ふくれ (気泡又は水泡による あわ状のふくれ) (2) 局部的に発生 したふくれ	B=0	1	I					
		$1/\text{m}^2 \leq B \leq 3/\text{m}^2$	2	II					
		$4/\text{m}^2 \leq B \leq 10/\text{m}^2$	3	III					
		$11/\text{m}^2 \leq B \leq 20/\text{m}^2$	4	III					
		$20/\text{m}^2 \leq B$	5	III					
	はがれ (コーティング材と基布 間の一面にわたるはがれ 及びはがれ面積が多数 ある場合は総面積)	なし	1	I					
		$D < 5\text{cm}^2/\text{m}^2$	2	II					
		$5\text{cm}^2/\text{m}^2 \leq D < 10\text{cm}^2/\text{m}^2$	3	III					
		$10\text{cm}^2/\text{m}^2 \leq D < 100\text{cm}^2/\text{m}^2$	4	III					
		$100\text{cm}^2/\text{m}^2 \leq D$	5	III					
	破れ (ピンホールを含む すべての破れをさす)	$B r < 1\text{cm}/\text{m}^2$	1	I					
		$1\text{cm}/\text{m}^2 \leq B r < 2\text{cm}/\text{m}^2$	2	II					
		$2\text{cm}/\text{m}^2 \leq B r < 5\text{cm}/\text{m}^2$	3	III					
		$5\text{cm}/\text{m}^2 \leq B r < 10\text{cm}/\text{m}^2$	4	III					
		$10\text{cm}/\text{m}^2 \leq B r$	5	III					
水漏れ	なし	1	I						
	わずかにもれる	2	II						
	もれる	3	III						
	著しくもれる	4	III						
空気漏れ	なし	1	I						
	わずかにもれる	2	II						
	もれる	3	III						
	著しくもれる	4	III						
接合部のは がれ (シシ縫合 又は熱溶着部などの界面 又はコーティング材と 基布のはがれ)	$B r < 1\text{cm}/\text{m}^2$	1	I						
	$1\text{cm}/\text{m}^2 \leq B r < 2\text{cm}/\text{m}^2$	2	III						
	$2\text{cm}/\text{m}^2 \leq B r < 5\text{cm}/\text{m}^2$	3	III						
	$5\text{cm}/\text{m}^2 \leq B r < 10\text{cm}/\text{m}^2$	4	III						
	$10\text{cm}/\text{m}^2 \leq B r$	5	III						

	膜 体			接 合 部
部 位 番 号	M1：本体膜	M7：破風膜	M13：補強膜	J1：掛け合わせ部
	M2：屋根膜	M8：気密用膜	M14：屋根取付け膜	J2：シール用膜
	M3：壁膜	M9：陣笠	M15：裾部取付け膜	J3：縫製部
	M4：妻膜	M10：送風ダクト	M16：非常口膜	J4：熱溶着部
	M5：エキスパンション	M11：排気ダクト	M17：フラップ膜	
	M6：扉膜	M12：壁裾膜		

定期点検リスト（４）

グレード	I	特に支障ない	II	次回の点検まで要注意	III	要診断	*	要対策
------	---	--------	----	------------	-----	-----	---	-----

	劣化現象	1次試験	デグリー	グレード等	東	西	南	北	診断結果及び措置
ベルト・ロープ類	摩 耗	なし	1	I					
		わずかに摩耗している	2	II					
		摩耗している	3	III					
		太さ、幅の2/3以下が摩耗	4	III					
		太さ、幅の1/2以下が摩耗	5	III					
	耐候劣化	なし	1	I					
		表面がわずかに脆くなっている	2	II					
		表面が脆くなっている	3	III					
		全面に硬化している	4	III					
		指でこすると脱落する	5	III					
	破 損	なし	1	I					
		1/10以下の破損がある	2	II					
		1/3以下の破損がある	3	III					
		1/2以下の破損がある	4	III					
		破断している	5	III					
補強ベルト	摩 耗	なし	1	I					
		わずかに摩耗している	2	II					
		摩耗している	3	III					
		厚さ2/3以下が摩耗	4	III					
		厚さ1/2以下が摩耗	5	III					
	耐候劣化	なし	1	I					
		表面がわずかに脆くなっている	2	II					
		表面が脆くなっている	3	III					
		全面に硬化している	4	III					
		指でこすると脱落する	5	III					
はとめ	腐 食	なし	1	I					
		変色している	2	II					
		さびが発生している	3	III					
		変 形	4	III					
		破断している	5	III					
	膜材料の境界	異状なし	1	I					
		わずかに隙間あり	2	II					
		隙間あり	3	III					
		1/2以上はなれている	4	III					
		欠 落	5	III					

	膜 体			接 合 部
部 位 番 号	M1：本体膜	M7：破風膜	M13：補強膜	J1：掛け合わせ部
	M2：屋根膜	M8：気密用膜	M14：屋根取付け膜	J2：シール用膜
	M3：壁 膜	M9：陣 笠	M15：裾部取付け膜	J3：縫製部
	M4：妻 膜	M10：送風ダクト	M16：非常口膜	J4：熱溶着部
	M5：エクスパンション	M11：排気ダクト	M17：フラップ膜	
	M6：扉 膜	M12：壁裾膜		

定期点検リスト（5）

グレード	I	特に支障ない	II	次回の点検まで要注意	III	要診断	*	要対策
------	---	--------	----	------------	-----	-----	---	-----

	劣化現象	1次試験	テグリー	グレード等	東	西	南	北	診断結果及び措置
シール・カバー・ゴム	硬化	硬くない	1	I					
		やや硬い	2	II					
		硬い	3	III					
		かなり硬い	4	III					
		顕著に硬い	5	III					
	ひび割れ	なし	1	I					
		わずかにひび割れがある	2	II					
		ひび割れがある	3	III					
		著しいひび割れがある	4	III					
	破れ	$B r < 1 \text{ cm} / \text{m}^2$	1	II					
		$1 \text{ cm} / \text{m}^2 \leq B r < 2 \text{ cm} / \text{m}^2$	2	II					
		$2 \text{ cm} / \text{m}^2 \leq B r < 5 \text{ cm} / \text{m}^2$	3	III					
		$5 \text{ cm} / \text{m}^2 \leq B r < 10 \text{ cm} / \text{m}^2$	4	III					
		$10 \text{ cm} / \text{m}^2 \leq B r$	5	III					
	ケール	さび	発錆は認められない	1	I				
白錆が発生			2	I					
赤錆が認められる			3	II					
かなり赤錆がある			4	III					
全面赤錆、ピittingが認められる			5	III					
損傷		損傷は認められない	1	I					
		断線あり	2	II					
		かなり断線が認められる	3	III					
		表面素線の10%以上	4	*					
		表面素線の20%以上	5	*					
摩耗		摩耗が認められない	1	I					
		少し摩耗が認められる	2	II					
		かなりすりへっている	3	III					
		素線の1/2以上すりへっている	4	*					
		素線が断線している	5	*					

	膜 体			接 合 部	ケーブル
部 位 番 号	M1：本体膜	M7：破風膜	M13：補強膜	J1：掛け合わせ部	C1：周囲ケーブル
	M2：屋根膜	M8：気密用膜	M14：屋根取付け膜	J2：シール用膜	C2：押えケーブル
	M3：壁膜	M9：陣笠	M15：裾部取付け膜	J3：縫製部	C3：吊りケーブル
	M4：妻膜	M10：送風ダクト	M16：非常口膜	J4：熱溶着部	C4：ガイケーブル
	M5：エキスパンション	M11：排気ダクト	M17：フラップ膜		C5：セキュリティケーブル
	M6：扉膜	M12：壁裾膜			

定期点検リスト（6）

グレード	I	特に支障ない	II	次回の点検まで要注意	III	要診断	*	要対策
------	---	--------	----	------------	-----	-----	---	-----

	劣化現象	1次試験	デグリー	グレード等	東	西	南	北	診断結果及び措置
ケーブル	さび	発錆は認められない	1	I					
		白錆が発生	2	I					
		赤錆が認められる	3	II					
		かなり赤錆がある	4	II					
		全面赤錆、ピittingが認められる	5	III					
ブル	損傷	損傷は認められない	1	I					
		断線あり	2	II					
		かなり断線が認められる	3	III					
		表面素線の10%以上	4	*					
		表面素線の20%以上	5	*					
具	摩耗	摩耗が認められない	1	I					
		少し摩耗が認められる	2	II					
		かなりすりへっている	3	III					
		素線の1/2以上すりへっている	4	*					
		素線が断線している	5	*					
具等	初期張力の低下(ゆるみ)	ゆるみがない	1	I					
		ゆるみが認められる	2	I					
		かなりゆるんでいる	3	II					
		有害なゆるみがある	4	III					
		構造全体に悪影響するゆるみがある	5	III					
ケーブル	ひび割れ	なし	1	I					
		わずかにひび割れがある	2	I					
		ひび割れがある	3	II					
		ケーブルに達するひび割れがある	4	II					
		全体的に大きいひび割れがある	5	III					
ケーブル	被覆材	損傷なし	1	I					
		わずかにある	2	I					
		かなりある	3	II					
		ケーブルに達する損傷がある	4	II					
		全体的に有害な損傷がある	5	III					

	ケーブル	取付け金具、ベルト、ロープ等
部 位 番 号	C 1 : 周囲ケーブル C 2 : 押えケーブル C 3 : 吊りケーブル C 4 : ガイケーブル C 5 : セキュリティケーブル	SO : ソケット部 PL 1 : 押えプレート部 PL 2 : 膜取付けプレート部 CC : ケーブル被覆部 BR 1 : ベルト、ロープ部 BN 1 : ボルト、ナット部

定期点検リスト(7) ー鋼製部材用 1次診断用ー

グレード	0:特に支障がない 1: 2: 3: 4: 5:
	I:特に支障がない II:次回の点検まで要注意 III:要診断 IV:要対策

劣化現象	診断基準	デグリー	グレード	東	西	南	北	診断結果及び措置
塗膜の表面劣化現象	変退色	変退色なし	CD 0	0				
		ほとんどない	CD 1	0				
		認められる	CD 3	0				
		顕著に認められる	CD 5	1				
	光沢度低下	なし	GD 0	0				
		ほとんどない	GD 1	0				
		認められる	GD 3	0				
		顕著に認められる	GD 5	1				
	白亜化	つかない	CK 0	0				
		粉状物がほとんどつかない	CK 1	0				
		粉状物がつく	CK 3	0				
		粉状物が顕著につく	CK 5	1				
塗膜層の劣化現象	ふくれ	ない	B 0	0				
		ほとんどない	B 1	1				
		認められる	B 3	2				
		顕著に認められる	B 5	3				
	割れ	ない	C 0	0				
		ほとんどない	C 1	1				
		認められる	C 3	2				
		顕著に認められる	C 5	3				
	剥がれ	ない	S 0	0				
		ほとんどない	S 1	1				
		認められる	S 3	2				
		顕著に認められる	S 5	3				
	ふくれ、割れ、剥がれ等の混在	ない	M 0	0				
		ほとんどない	M 1	1				
		認められる	M 3	2				
		顕著に認められる	M 5	3				
さびの発生状況	白さび (亜鉛めっきの劣化現象)	ない	WR 0	1				
		ほとんどない	WR 1	2				
		認められる	WR 3	3				
		白さびに加えて赤さびも認められる	WR 5	5				
	表面さび	表面さびはない	R 0	1				
		塗膜下にさび色のにじみ発生	R 1	2				
		点さび・条痕さびの発生	R 3	3				
		全面的なさびの発生	R 5	5				
	欠損	断面欠損はない	DR 0	0				
		表面があばた状態に腐食	DR 1	IV				
		孔食が散在	DR 3	IV				
		著しい断面欠損	DR 5	IV				
その他	ない	0	I					
	変形	—	IV					
	はずれ	—	IV					
	破断	—	IV					

太字は、補修を要するデグリーを示す

部位記号	C:柱 G:大梁 B:小梁 B:ブレース
	J:接合部 JC1:柱頭 JC2:柱脚 JG1:梁端(梁-柱) JG2:梁央(梁-梁)
	P:鋼管 H:型鋼 T:トラス
	O:その他

3. 定期点検結果

(1) 膜構造部全体 (変形・しわ・破れ・初期張力など)

(2) 膜材料等の部分 (膜材料・ケーブル・膜定着部など)

(3) 鋼製部材の部分

(4) 総合所見

1. 次回の点検まで要注意 (要観察) 項目 (有 ・ 無)

・具体的な内容【 】

2. 要診断項目 (有 ・ 無)

・具体的な内容【 】

3. 要対策項目 (有 ・ 無)

・具体的な内容【 】

4. 要対策のうち早急な対策が必要な項目 (有 ・ 無)

・具体的な内容【 】

例：以上が点検からの診断結果です。要注意の項目は次回の点検（3年後）まで、継続的な観察を御願いたします。要対策および早急な対策が必要と判断された項目は、すみやかに対策を進めて下さい。等の適切なコメントで危険性の告知を適切に行ってください。

定期点検リスト(8) 一鋼製部材用 2次診断用一

グレード	0:特に支障がない 1: 2: 3: 4: 5:
	I:特に支障がない II:次回の点検まで要注意 III:要診断 IV:要対策

劣化現象	診断基準	デグリー	グレード	方位				診断結果及び措置
				東	西	南	北	
塗膜の表面劣化現象	変退色	変退色なし	CD 0	0				
		色票 1	CD 1	0				
		色票 2	CD 2	0				
		色票 3	CD 3	0				
		色票 4	CD 4	0				
		色票 5	CD 5	1				
	光沢度低下	光沢度低下なし	GD 0	0				
		標準板 1	GD 1	0				
		標準板 2	GD 2	0				
		標準板 3	GD 3	0				
		標準板 4	GD 4	0				
		標準板 5	GD 5	1				
	白亜化	粉状物が全く認められない	CK 0	0				
		粉状物がほとんど認められない	CK 1	0				
		粉状物がわずかに認められる	CK 2	0				
粉状物が認められる		CK 3	0					
粉状物がかなり認められる		CK 4	0					
粉状物が極めて顕著に認められる		CK 5	1					
塗膜層の劣化現象	ふくれ	ふくれなし	B 0	0				
		パターン 1	B 1	1				
		パターン 2	B 2	2				
		パターン 3	B 3	2				
		パターン 4	B 4	2				
		パターン 5	B 5	3				
	割れ	割れなし	C 0	0				
		パターン 1	C 1	1				
		パターン 2	C 2	2				
		パターン 3	C 3	2				
		パターン 4	C 4	2				
		パターン 5	C 5	3				
	剥がれ	剥がれなし	S 0	0				
		パターン 1	S 1	1				
		パターン 2	S 2	2				
パターン 3		S 3	2					
パターン 4		S 4	2					
パターン 5		S 5	3					
ふくれ、割れ、剥がれ等の混在	なし	M 0	0					
	パターン 1	M 1	1					
	パターン 2	M 2	2					
	パターン 3	M 3	2					
	パターン 4	M 4	2					
	パターン 5	M 5	3					
付着性低下 (クロスカットテスト)	異常なし	CC 0	0					
	パターン 1	CC 1	1					
	パターン 2	CC 2	2					
	パターン 3	CC 3	3					
	パターン 4	CC 4	4					
	パターン 5	CC 5	5					
付着性低下 (Xカット)	剥がれなし	XC 0	0					
	切込みに沿ってわずかに剥がれが認められる	XC 1	1					
	切込み線のいずれかに幅1.6~3.2mmの剥がれが認められる	XC 2	2					
	切込み線のいずれかに幅3.2mm以上の剥がれが認められる	XC 3	3					
	Xカット部分のほとんどに剥がれが生じている	XC 4	4					
	Xカット部分以外にも剥がれが生じている	XC 5	5					
さびの発生状況	(表面無処理鋼材) さびの発生	発錆なし	R 0	0				
		ミルスケールがほとんど存在し、赤さびが散在	R 1	1				
		赤さびの面積がミルスケールの面積より大	R 2	2				
		全面に赤さびが認められる	R 3	3				
		全面赤さびで、厚さびが認められる	R 4	4				
		全面赤さびで、さびの層がフレーク状に剥がれる	R 5	5				
	(亜鉛めっき鋼材) 白さび、赤さびの発生	発錆は認められない	R 0	0				
		光沢がなく、黒変が認められる	R 1	1				
		薄い白さび層が認められる	R 2	2				
		厚い白さび層と点状赤さびが認められる	R 3	3				
		めっき層にかなりの赤さび面が混在が認められる	R 4	4				
		全面に赤さびが認められる	R 5	5				
	(塗装鋼材) さびの発生	発錆なし	R 0	0				
		さびの発生率 0.03%以下	R 1	1				
		さびの発生率 0.03~0.3%	R 2	2				
さびの発生率 0.3 ~ 1%		R 3	3					
さびの発生率 1 ~ 3%		R 4	4					
さびの発生率 3 ~ 10%		R 5	5					
さびの深さ	全断面の約0.5%程度以下	D 0	2					
	全断面の約1%程度	D 1	3					
	全断面の約3%程度	D 2	4					
	全断面の約5%程度	D 3	4					
	全断面の約10%程度	D 4	5					
	全断面の約20%程度	D 5	5					

太字は、補修を要するデグリーを示す

部	C:柱 G:大梁 B:小梁 B:ブレース
位	J:接合部 JC1:柱頭 JC2:柱脚 JG1:梁端(梁-柱) JG2:梁中(梁-梁)
記	P:鋼管 H:型钢 T:トラス
号	O:その他

定期点検リスト(9) ー鋼製部材用 3次診断用ー

グレード	0:特に支障がない 1: 2: 3: 4: 5:
	I:特に支障がない II:次回の点検まで要注意 III:要診断 IV:要対策

劣化現象	診断基準	デグリー	グレード	東	西	南	北	診断結果及び措置
塗膜の表面劣化現象	変退色	△Eばらつき範囲内である	CD 0	0				
		0 < △E < 5	CD 1	0				
		5 < △E < 10	CD 2	0				
		10 < △E < 15	CD 3	0				
		15 < △E < 20	CD 4	0				
	20 < △E	CD 5	1					
	光沢度低下	Gばらつき範囲内である	GD 0	0				
		70 < G < 100	GD 1	0				
		50 < G < 70	GD 2	0				
		30 < G < 50	GD 3	0				
		15 < G < 30	GD 4	0				
	G < 15	GD 5	1					
	白亜化	白亜化なし	CK 0	0				
		パターン 1	CK 1	0				
		パターン 2	CK 2	0				
パターン 3		CK 3	0					
パターン 4		CK 4	0					
パターン 5	CK 5	1						
塗膜層の劣化現象	ふくれ、さび	ふくれなし	BR 0	0				
		パターン 1	BR 1	1				
		パターン 2	BR 2	2				
		パターン 3	BR 3	2				
		パターン 4	BR 4	2				
	パターン 5	BR 5	3					
	ピンホール	ピンホールはほとんど認められない	P 0	0				
		ピンホールがやや認められる	P 3	2				
		ピンホールがかなり認められる	P 5	3				
	割れ、さび	割れなし	CR 0	0				
パターン 1		CR 1	1					
パターン 2		CR 2	2					
パターン 3		CR 3	2					
パターン 4		CR 4	2					
パターン 5	CR 5	3						
剥がれ、さび	剥がれなし	SR 0	0					
	パターン 1	SR 1	1					
	パターン 2	SR 2	2					
	パターン 3	SR 3	2					
	パターン 4	SR 4	2					
パターン 5	SR 5	3						
ふくれ、割れ、剥がれ、さび	ふくれ、割れ、剥がれ、さびなし	MR 0	0					
	パターン 1	MR 1	1					
	パターン 2	MR 2	2					
	パターン 3	MR 3	2					
	パターン 4	MR 4	2					
パターン 5	MR 5	3						
さびの発生状況	(表面無処理鋼材) さびの発生	発錆なし	R 0	0				
		ミルスケールがほとんど存在し、赤さびが散在	R 1	1				
		赤さびの面積がミルスケールの面積より大	R 2	2				
		全面に赤さびが認められる	R 3	3				
		全面赤さびで、浮きさびが認められる	R 4	4				
	全面赤さびで、さびの層がフレーク状に剥がれる	R 5	5					
	(亜鉛めっき鋼材) 白さび、赤さびの発生	発錆は認められない	R 0	0				
		光沢がなく、黒変が認められる	R 1	1				
		薄い白さび層が認められる	R 2	2				
		厚い白さび層と点状赤さびが認められる	R 3	3				
		めっき層にかなりの赤さび面が混在が認められる	R 4	4				
	全面に赤さびが認められる	R 5	5					
	(塗装鋼材) さびの発生	発錆なし	R 0	0				
		さびの発生率 0.03%以下	R 1	1				
		さびの発生率 0.03~0.3%	R 2	2				
さびの発生率 0.3 ~ 1%		R 3	3					
さびの発生率 1 ~ 3%		R 4	4					
さびの発生率 3 ~ 10%	R 5	5						
(表面無処理鋼材) さびの深さ	全断面の約0.5%程度以下	D 0	2					
	全断面の約1%程度	D 1	3					
	全断面の約3%程度	D 2	4					
	全断面の約5%程度	D 3	4					
	全断面の約10%程度	D 4	5					
全断面の約20%程度	D 5	5						

太字は、補修を要するデグリーを示す

部	C:柱 G:大梁 B:小梁 B:ブレース
位	J:接合部 JC1:柱頭 JC2:柱脚 JG1:梁端(梁-柱) JG2:梁央(梁-梁)
記	P:鋼管 H:型鋼 T:トラス
号	O:その他

開閉膜構造 定期点検チェックリスト

開閉方式	<input type="checkbox"/> 開閉式テント	竣工年月日	年 月 日
	<input type="checkbox"/> ジャバラ式テント	点検年月日	年 月 日
	<input type="checkbox"/> 膜パネル式テント	経過年数	年目

凡例 ○:異常なし
 △:補修・部品交換が必要
 ×:至急、交換が必要

点検項目		点検数	判定	備考
膜材	1 膜のスパン間に雨溜まり、膜の破損	全体		
	2 膜の折りたたみや屈曲による破損	全体		
	3 接触やこすれによる膜破損	全体		
開閉動作	4 開閉動作の確認	全体		
	5 異常音の有無	全体		
	6 開閉速度の異常	全体		
レール	7 レールの異常	全数		
	8 レールのジョイント部の異常	全数		
	9 レール支持材の緩み	全数		
	10 レール付近の障害物	全体		
	11 ストッパーの動作	全数		
フレーム	12 ヒンジ部分のピンの緩みや脱落	全数		
	13 ボルトやナットの緩みや脱落	全体		
	14 溶接部の異常	全体		
	15 アンカーボルトの緩み	全数		
	16 フレームの歪みや蛇行、異常傾斜	全体		
駆動装置	17 ベアリング部材	全数		
	18 シーブ材	全数		
	19 ワイヤロープのキンク、索線切れや磨耗	全数		
	20 ワイヤロープの緩みやクリップの脱落	全数		
	21 ウィンチやチェーンの異常	全数		
	22 車輪の破損、脱落、スリップ等の異常	全数		
	23 リミットスイッチの動作	全数		
その他	24 開閉の妨げになるサビや汚れ・ほこりなど	全体		
	25 開閉条件に関連するセンサーの状態	全数		
	26 制御部品の動作	全数		
	27 駆動モーター	全数		
	28			
	29			
30				
総合所見				

注意事項:このチェックリストは、開閉にかかわる部分のみに使用し、通常の膜構造定期点検チェックリストを併用のこと。
 また、開閉機構の電氣的・機械的な部分の定期点検は、別途定められた規定にもとづいて点検を行うこと。

[デグリー]

[デグリー]

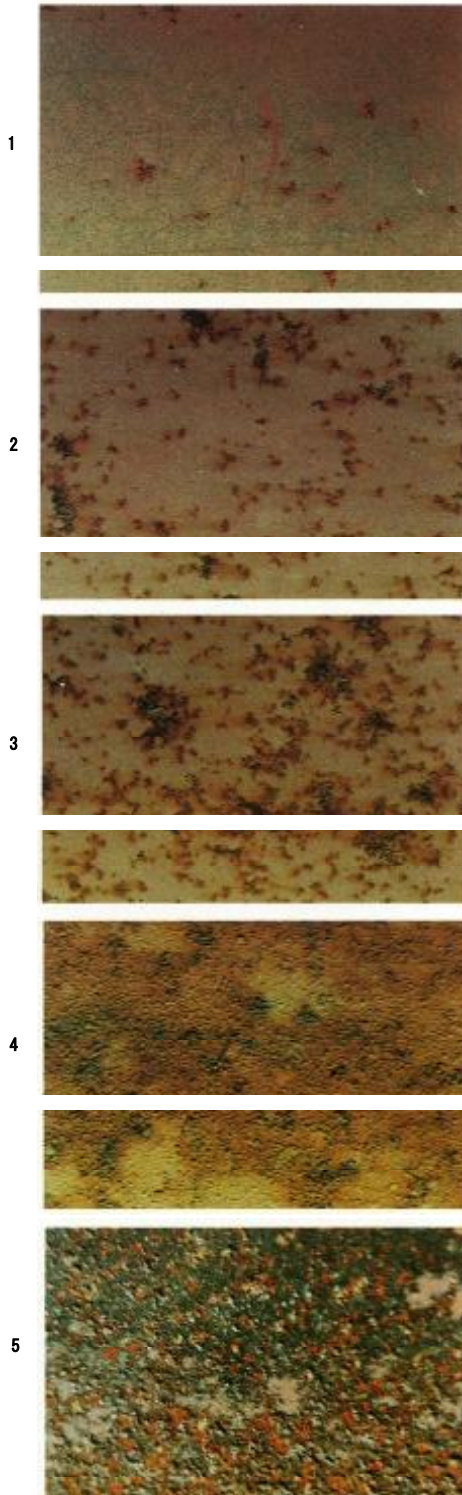


写真-1 さび[R]の例

写真-1 さび[R]の例

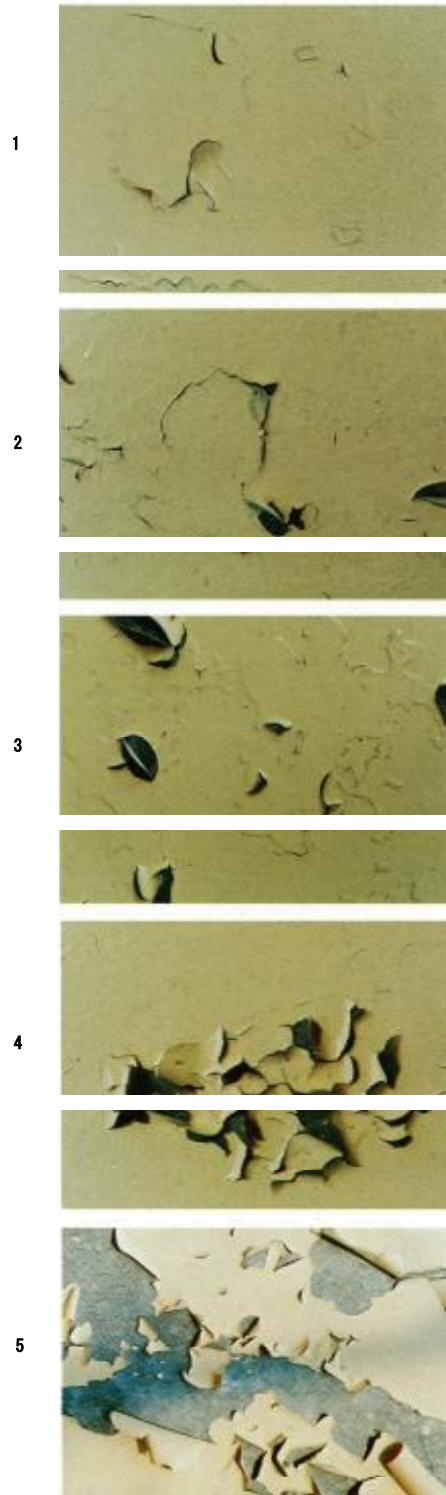


写真-2 剥がれ[S]の例

写真-2 剥がれ[S]の例

[デグリー]

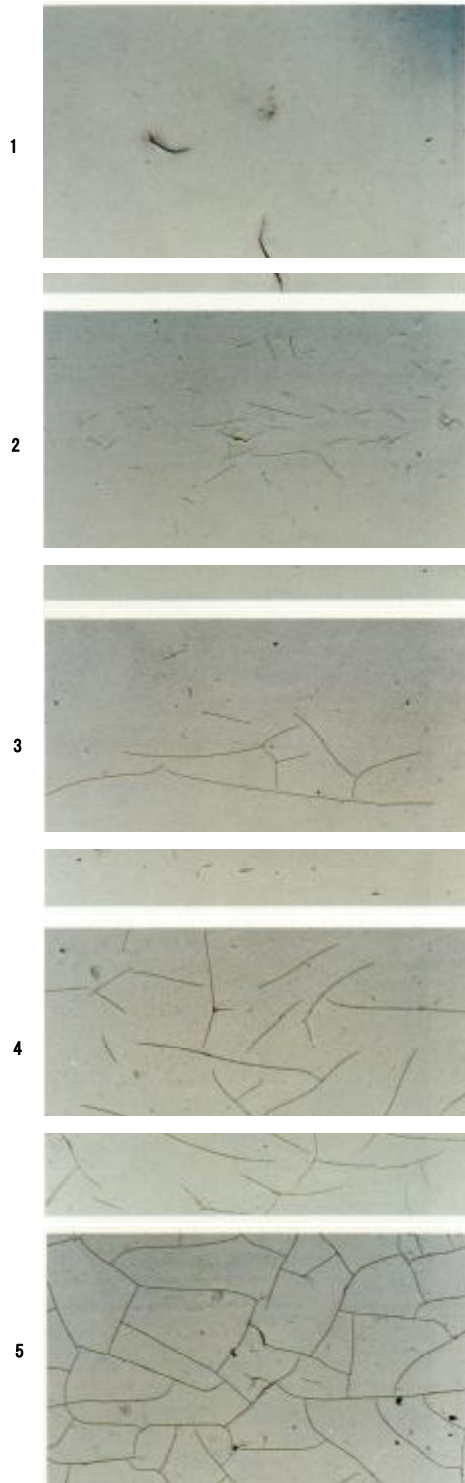


写真-3 割れ[C]の例

[デグリー]

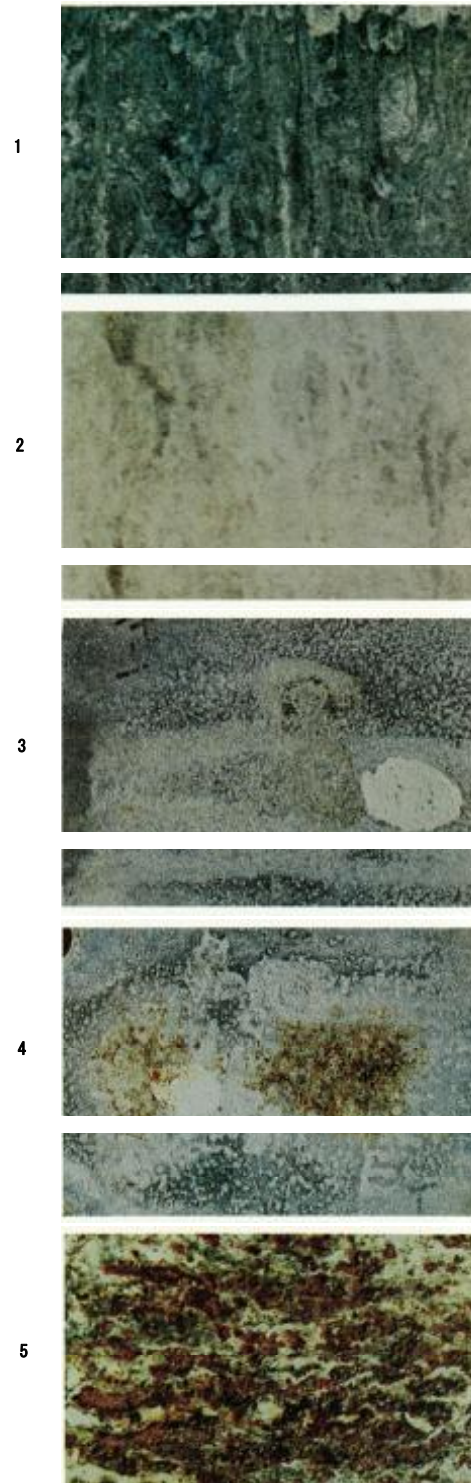


写真-4 亜鉛めっきのさび[R]の例

[デグリー]

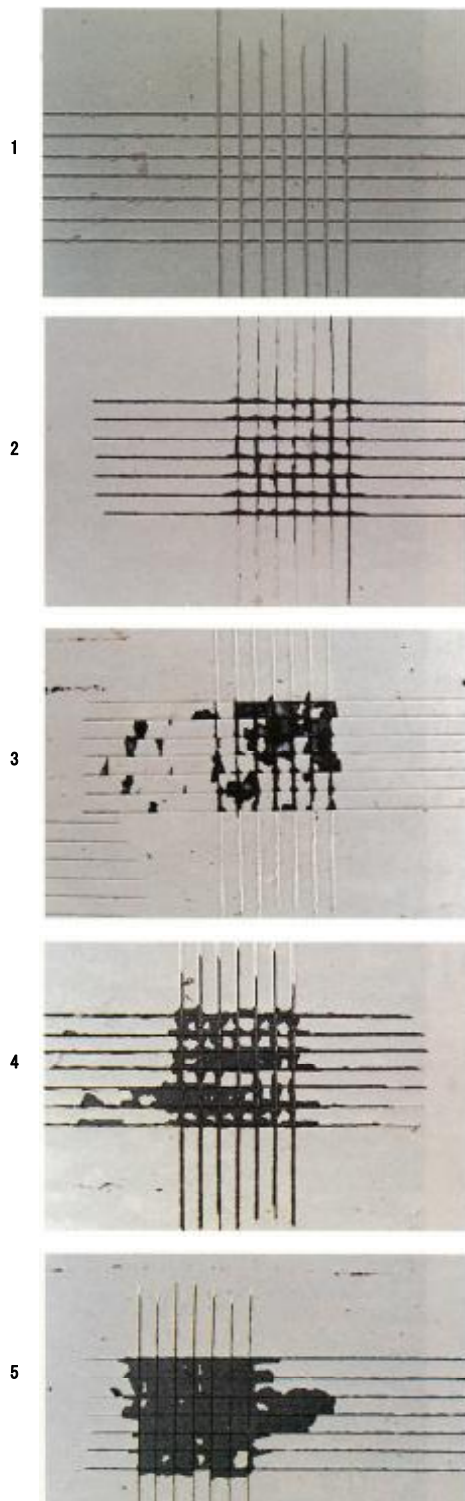


写真-5 クロスカットテープ試験後[CR]の例

[デグリー]

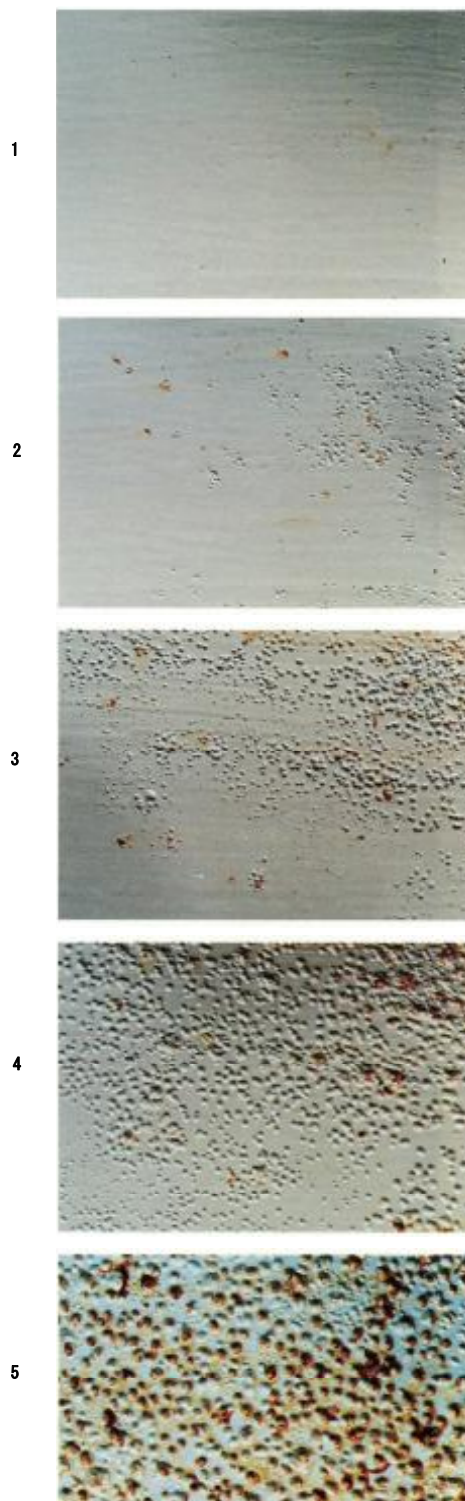


写真-6 ふくれ・さびの混在[M]の例

[デグリー]

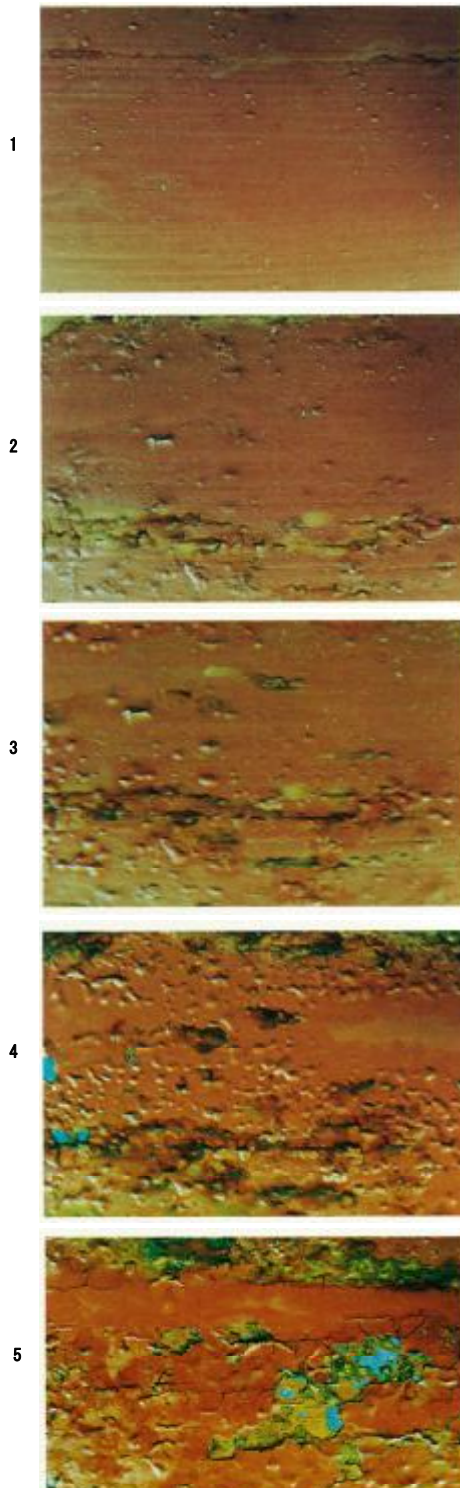


写真-7 割れ・ふくれ・さびの混在[MR]の例

[デグリー]

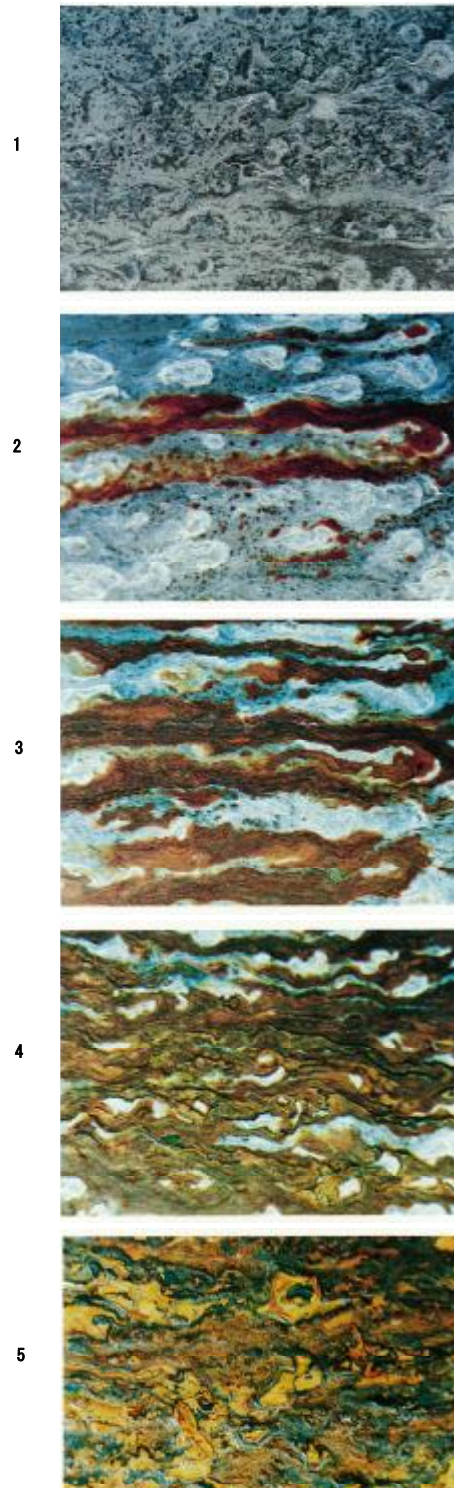


写真-8 亜鉛めっきのさび[R]の例